

～美味しい水を目指して～

新中宮浄水場通信

令和4年夏号

創刊号

発行：枚方市上下水道局
上下水道部上水道室浄水課
令和4年8月1日

枚方の浄水場が新しくなります



新中宮浄水場完成予想図

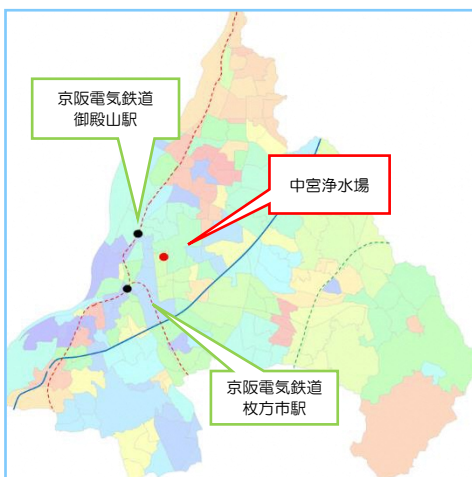
～安全・安心・安定～ これは、私たちと事業者が掲げる新しい浄水場のコンセプトの1つです。

このコンセプトに基づき、みなさまに安心を届けるため、「新中宮浄水場通信」を発刊することとなりました。

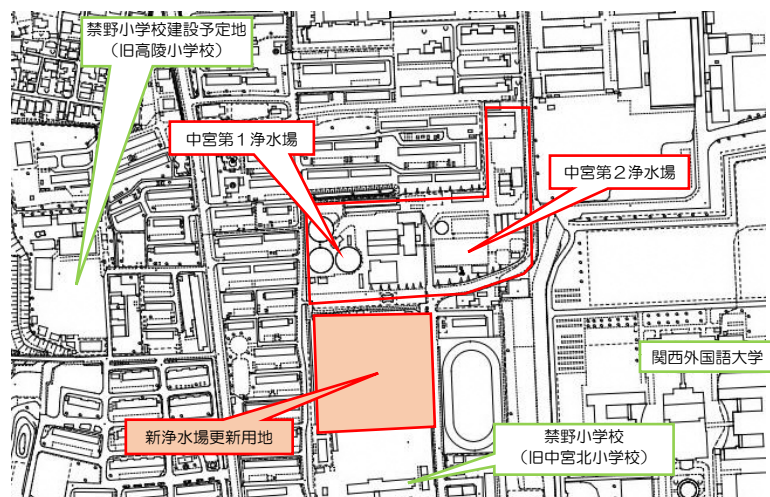
生活になくてはならない水について、この広報誌を通じてもっと身近に感じていただき、みなさまの安心に繋がれば幸いです。

中宮浄水場の所在地

みなさまは中宮浄水場がどこにあるか知っていますか？住所は中宮北町にあり、最寄りの駅は京阪電気鉄道の御殿山駅で、徒歩約15分。禁野小学校（旧中宮北小学校）の北側に位置しています。近くにはUR中宮第3団地や、関西外国語大学などがあります。



— 枚方市の地図 —



— 中宮浄水場近辺拡大図 —

中宮浄水場の現状と更新の必要性

現在の中宮浄水場は、第1浄水場(昭和40年竣工)と第2浄水場(昭和48年竣工)の2つの浄水場で構成されています。第1浄水場では1日最大9万トン、第2浄水場では4万トンの処理能力があり、枚方市の約9割もの水道水をこの中宮浄水場でまかっています。そんな今でも大活躍の第1浄水場ですが、建設からすでに57年が経過し、施設の老朽化が著しくなっています。更に第1浄水場は急速沈殿池を採用していますが、これは建設当時の濁りが多かった淀川の水を処理するのに適しており、近年の水質改善されている淀川の水への対応が難しいこともあり、施設を更新することになりました。

本事業では、これまで以上の効率性・機能性を目指し、中宮浄水場に隣接した建設予定地に膜ろ過方式を採用した浄水場の建設を行います。



— 現在の中宮第1浄水場 急速沈殿池 —

選定事業者について

令和2年度に本事業をDBO方式にて実施する民間事業者に対し総合評価一般競争入札にて選定を行いました。枚方市が事業者に要求しているものがしっかり形になった提案内容であるのか、入札・基礎審査・プレゼンテーション・ヒアリング等さまざまな工程を経て総合的に判断し、枚方市の新浄水場にふさわしい提案内容であると認め、令和3年12月20日に下記事業者と契約締結しました。現在は新浄水場供用開始に向け、市と事業者一丸となり業務を進めています。

発注者

氏名 枚方市上下水道局上下水道事業管理者 伊藤 竹彦
住所 大阪府枚方市中宮北町20番3号

受注者

代表企業

氏名 **メタウォーター株式会社 関西営業部**
担当 機械・電気設備工事
住所 大阪府大阪市北区小松原町2番4号 大阪富国生命ビル

構成企業

氏名 **株式会社NJS 大阪総合事務所**
担当 設計業務
住所 大阪府大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

構成企業

氏名 **株式会社安藤・間 大阪支店**
担当 土木・建築工事
住所 大阪府大阪市福島区福島6丁目2番6号

構成企業

氏名 **メタウォーターサービス株式会社 事業推進本部 西日本営業部**
担当 運転維持・管理業務
住所 大阪府大阪市北区小松原町2番4号 大阪富国生命ビル

構成企業

氏名 **ALSOK大阪株式会社**
担当 警備業務
住所 大阪府大阪市中央区谷町2丁目3番4号 サンシャイン大手前ビル6階

今回採用したDBO方式とは

Design-Build-Operate（設計・建設・維持管理）の略で、民間企業に建物の設計から建設、維持管理を一体的に委ねる民間委託方式です。DBO方式のメリットとして、設計・建設からその維持管理業務を通して民間事業者のノウハウを活用出来る点が挙げられます。通常私たちが行っている公共工事では、設計・建設・維持管理業務を必要な時期にそれぞれ別の業者に発注しますが、全てを一括して発注することにより、それぞれの業者に発注をかけるよりも問題が起こった時の責任の所在がはっきりしやすいことや、設計を行う段階で民間事業者の維持管理業務の視点からの意見を取り入れることができるなど、様々な観点から多角的に業務を進めることができます。

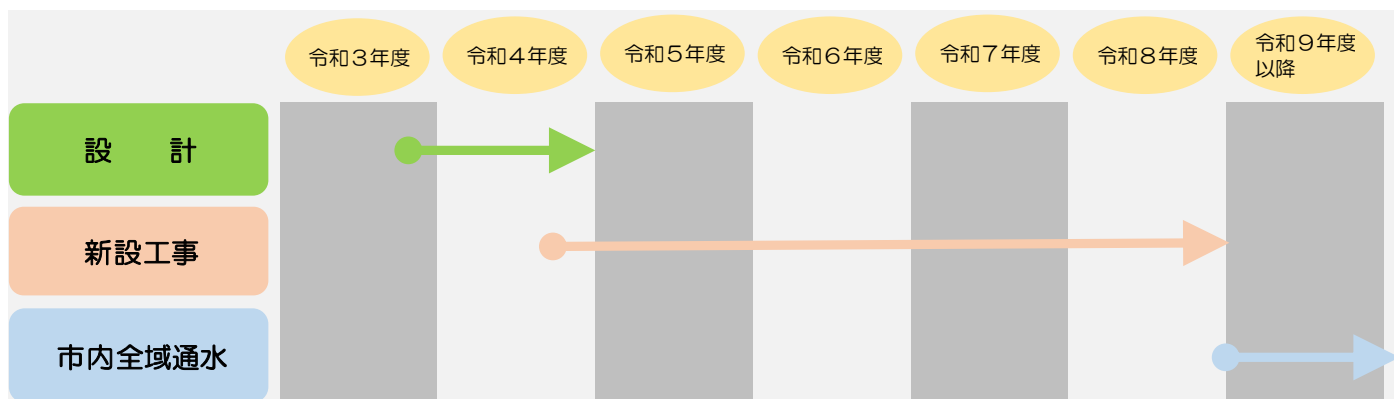
この方式は、ゴミ処理施設や下水処理場での導入事例が多く、水道事業でも複数の市がすでに実施している方式となっています。

浄水場完成までの事業スケジュール

事業スケジュールは以下のとおりです。

契約締結後の令和3年度は設計業務に着手しています。本事業における設計業務というのは、入札時に提出された提案内容の再確認、工事を行うために必要な詳細図面の作成や各種申請業務、測量や土質調査などの調査業務などを指します。

令和4年度後半からは土の搬出などを随時行っていきます。令和5年度から本格的に建設工事に着手、令和8年度末に工事完了して令和9年4月からみなさまの水道水として利用できるようになる予定です。



契約を行ってから現在までの取り組みについて

設計業務

現在事業者と設計業務を進めています。

枚方市と事業者でそれぞれ各専門分野である土木担当、建築担当、機械設備担当、電気設備担当がいます。各担当同士の協議のほか、定期的に全体の会議（定例会議）を行い、全員でより良い浄水場とするためにどのような施設とするべきか日々議論を重ねています。

それ以外にも、憩いの場として市民のみなさまに利用していただける開放緑地も計画しているところで



— 定例会議のようす —

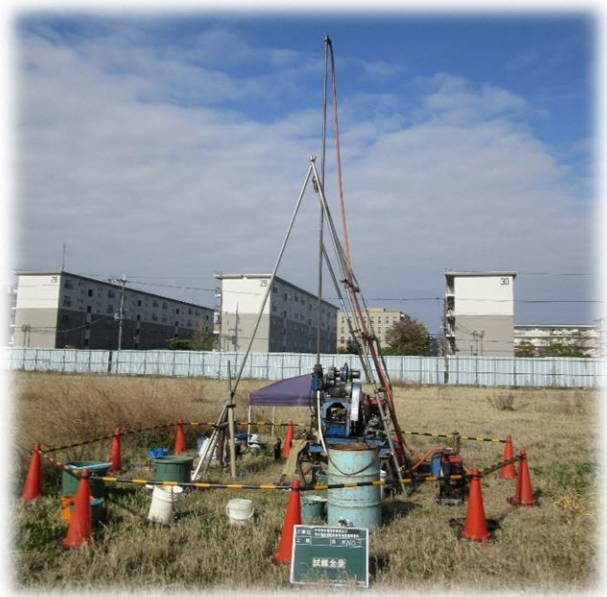
土質調査

設計業務と同時進行で行っている土質調査とはどのようなものなのでしょうか。

土質調査を行うことによって、地質・色調・変質の程度・におい・粒度（粒のぐあい）・硬さ・締まりぐあい・湿潤状態・混入物などたくさんのがわかります。土質調査の結果により、その土地に最も適する基礎など構造物の選定を行います。これは大きな建物だけに言えることではなく、みなさまがお住まいになられている住宅でも同じことです。どれだけ良い家を建てても基礎がしっかりしていないと倒れてしまいます。

実際にどのように調査を進めるかという、右の写真のような機械を使用して、土を掘ったり穴を開けたりして土の状態を調べます。機械は1種類だけではなく、調査する項目によってさまざまなものがあります。

みなさまに安全で安心な水道水をいつでもお届けすることが我々水道局職員の責務です。そのためには平時はもちろんのこと、災害にも強い水道施設を建設する必要があります。そのための1番最初の1番大事な調査、ということになります。



— 土質調査の様子 —

ここでひと息

下の写真は中宮浄水場内管理棟屋上から撮影したものです。今はまだ何もなただの広々とした土地ですが、これからどんどんと工事が進んでいきます。私たち技術職は0から目的物を形にしていくのが仕事です。それが市民のみなさまの生活の一部となる水道水をつくる施設であるということならやる気が出ないわけがありません。



— 現在の新浄水場更新用地 —

次号（第2号）のお知らせ

次号の発行は10月ごろを予定しています。

掲載記事は以下のとおりです。

- ・膜ろ過のすごさ
- ・事業者インタビュー
- ・職員インタビュー
- ・設計の進捗状況
- ・工事のお知らせ など

※内容は予告なく変更になる可能性があります

次号もお楽しみに！



編集後記

今回担当者全員が広報誌というものはじめて作ります。私たちは「技術職」と呼ばれていて、普段は水道局の建物や設備などの新設や修理の設計や工事監理が専門の建築担当・機械設備担当・電気設備担当です。市民のみなさまにどうすれば楽しく分かりやすくお伝えできるのか・・・。普段やらない仕事だけに悪戦苦闘していますが、新鮮な気持ちで取り組んでいます。また感想などいただければ今後の励みになります。よろしくお願いいたします。